こ こ ろ 医 療 福 祉 専 門 学 校 佐 世 保 校

令和６年度第２回教育課程編成委員会議事録

１　日 時　令和７年１月 26 日（日）10：00～11：10

２　場 所　こころ医療福祉専門学校佐世保校 ５階 503 教室

３　委 員　出席：髙橋　賢一郎（長崎県柔道整復師会佐世保支部）
上田　陽介（純心整骨院）
中野　仁、池田　智恵

（敬称略）

４　主な内容

（１）開会のことば（中野）

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

（中野）教育課程編成委員会は、専攻分野に関する企業・団体等との連携体制を確保して、授業科目の開設やその他の教育課程の編成を行うための組織である。今回は、職業倫理の授業について、委員の方より、ご意見ご感想をお聞きし今後の授業展開の参考にしたい。

（２）教育課程編成委員会

ア　「職業倫理」授業について

（中野）令和５年度までは、「職業倫理」の授業を１年次で実施していたが、科目の内容が臨床に直結するものであり、基礎的な医学知識を学び、臨床実習などを体験した上級学年でなければ、理解が困難と考え、今年度からカリキュラムを変更し、３年次に学習することにした。授業で使用している教科書の写しを予めお配りしていたが、ご感想をお聞かせいただきたい。

（髙橋）倫理は非常に難しい。教科書はケーススタディが多く入っており良い。臨床も経験してない中では難しいと思うので、3 年生で学習するというのは理解が進んでいて妥当ではないか。

（上田）倫理観は講義だけではイメージがつきにくい。色々な経験からくるものだが、国家試験に必要ならば教科書である程度習っておかなければならない。実際には卒業してから経験して身に付いていくだろうが、知識としてあれば理解がし易いだろう。

私が、重要だと思う事を３点あげると、

①患者の安全と健康の尊重

②誠実なコミュニケーションが不可欠ということ
③患者の尊厳の尊重（ニーズに応える）
教科書にある、ケーススタディの内容は必ず現場では直面するような事案なので、倫理的判断を実践し、経験を積んでいくことが重要だと思う。

（中野）倫理の捉え方が多岐にわたる中で、絞るのが難しい。学生に3年間という短期間でどの辺りまで理解させるのか、何を基準に評価していくのかを考えていかなければならない。倫理観は更に求められていく重要なもので、より分かりやすいカリキュラムを作成していく。
「守秘義務について」、「医療機関での患者とのトラブル」が問題になっているが、頭に入れて置き、心構え的なものを植え付けていければ良いと思う。
具体的には、教科書に記載されてるグループディスカッション事例をロールプレイング形式で行い、意見を出し合うという授業が有効と考えている。実際の現場でのご経験の中でこういう事例に意見を出し合うと良いのでは、というものがあればお聞かせいただきたい。

（髙橋）プライバシーの配慮のこと。狭く、オープンな施術所の中で、患者の情報が待たれている他の患者に聞こえないようにしなければならない。具体的なこと等を話すときに注意している。
優先順位のこと。座って待つのが大変な患者をベッドへ案内したいが、混み合っていてベッドが一杯になっている場合。ベッドを予め一台予備で確保しておく、他にお待ちの患者さんに断りを入れるなどして対応している。

（上田）臨機応変に立ち回らないといけない。経験で出来てくるようになるが、失敗した場合には素直に謝ることが大事。
様々なシチュエーションで事例をロールプレイングするのは良い。

（髙橋）実際の施術の中でトラブルにならない様に努めているが、いつトラブルが起こるか分からない。患者の生活環境や仕事のことなど考慮し、よく説明を行い、常に真摯な態度で誠意を持って当たることが大切。
納得されない患者に対しては医療機関に紹介を行う。学生の時から繋がりが持てれば良いと考える。

（中野）整形外科や介護施設などの体験が出来れば良いと考えるので、学校でも検討していく。

（３）教育課程編成委員会の閉会
（中野）今回のご意見を議事録でご報告するので、確認をお願いしたい。